



# 子育てチャンネル

## 生卵(卵)一個から何かが始まる( )

最近、テレビで女の子が卵を割って器に落とすシーンをよく見るが、女の子の表情がなんとも理解できない。失敗してちよつと心配そうなのか、成功してうれしいのか判断しがたいのである。

ところで世のお母さん方、自分の子供に卵の割り方をいつ教えているのかなあ。いつ教えようとしているのか、教える必要がないと思っっているのかなあ。

昔教員のころ、5年生の家庭科で一番初めの調理実習は、卵とほつれん草の油炒めとみそ汁だったと思う。子供たちに卵を割らせるという経験なのだ、子供の中にはその実習をすり抜ける子がいる。

事前に学級通信で「卵を割る練習をさせておいてください」とお願いしても3分の1ぐらいしか練習して

こない。

理由は「忙しい」「卵がなかった」「練習しなくていい」「だから家庭科があるんでしよう」などなど。

以前に触れたことがあつたが、女子大生の旅行や合宿の折、朝ごはん

はんで生卵がつくのだが、ほとんどの学生が食べない。

理由を聞くと「卵を割るのがこわい」「失敗したら嫌」「割ることができない」「やったことがない」と大学の先生がこぼしていた。将来家庭にはいたらどうするのだろう、と要らぬ心配をしてみるが、何とかしていくのだらう。

卵ひとつにしてもこんな



イラスト：若井由香さん

具合だから、数ある料理をいくつか子供に教えるとなればとんでもないことになるのだらう。

「いちいち教える必要なんてないよ」「私だつて教えてもらつたことないもん」「料理なんて自然に覚えていくもんだよ」「忙しくて子供にかまつてないよ」「んかいられないよ」。

確かにその通りかもしれない。でも家庭によっては「そのおいも5個持つてきて」「卵割ってみる?」「キャベツ刻んでくれる?」などと何気なく料理に誘つてみたり、関心を持たせたりはできると思うのだ。次第にレベルを上げ

ていって、栄養素のことやその働き、体と与える影響など、子供と一緒に話し合つていけないものだらうか。

食育や事細かいスロフードなどは栄養士さんや保健師さんが広報などで親切にご指導くださつていて心配はないのだが、サトウのご飯とスーパーのタツパー入りのおかずだけではなく(そんな人はいないでしょうが...)、子供と一緒に作つた一品料理で、結構わいわいがやがやと「この次はもっと別のものを作りたい」「今度はもっと上手になりたい」「今度はもっと上手にもあるだらう。それに、一番のご馳走は、家族そろつての楽しい食事や家族団らんなのだから。世のお母さん方、卵一個からいろいろなた物語が生まれてくるかも。

三原真琴